

平成25年度

新図書館等複合施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査

追手筋遺跡

記者発表及び現地説明会資料



調査区北東部で確認された池跡

日時 記者発表 平成25年12月12日(木) 午前11時00分～12時00分
現地説明会 平成25年12月14日(土) 午後1時30分～3時00分
場所 追手筋遺跡発掘調査現場(高知市追手筋二丁目 旧追手前小学校)

(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

高知県・高知市が計画している新図書館等複合施設建設予定地に所在する追手筋遺跡において、工事により影響を受ける部分について事前に発掘調査を実施し、遺跡の内容を記録保存して地域の歴史の復元に役立てるようとするものです。

(2) 調査対象地

高知市追手筋二丁目

(3) 調査期間

平成25年8月5日～12月末(予定)

(4) 調査面積

約3,600㎡

(5) 調査体制

調査委託者 高知県教育委員会(担当：新図書館整備課)

調査受託者 (公財)高知県文化財団(実施機関：埋蔵文化財センター)

(6) 調査協力

高知県，高知市，新図書館等整備事業関係者，地域の方々

2. 追手筋遺跡の概要と調査成果

(1) 遺跡の概要

平成23・24年度に高知県教育委員会と高知市教育委員会が実施した試掘調査により発見された遺跡で、江戸時代の城下町跡が広がる可能性が高い「高知郭中参考地域」の区域に当たります。中でも追手筋遺跡は家老などの上級武士が居住していた屋敷跡があったとされる場所で、絵図によると調査区東側は「山内」，「村田」，調査区西側は「百々」，「山内」といった名前がみられます。

(2) 主な検出遺構

調査では、江戸時代初頭から幕末にかけての井戸跡(3基)，集水枡(2基)，池跡(2箇所)，溝状遺構，土坑，ピットなど多数の遺構が確認されました。中でも屋敷境とみられる溝跡や池跡，浄化槽として機能したと考えられる集水枡と竹樋は注目されます。

池跡1：調査区北東部で確認された池跡で，出土遺物より江戸時代後期に築造され大正期頃まで使用されていたと考えられます。残存状況が非常に良好で，中島や池上に張り出した施設があったとみられます。時期的に見て「村田家」の池跡と考えられます。

池跡2：調査区南西部で確認されたもので，18世紀頃まで使用されたと考えられ，「百々家」の池跡と考えられます。

集水枡：枡の側面には円形の孔が開いた板が確認でき、孔には木製の栓が入れてあり、栓の奥には竹樋が伸びていました。また、底には桶側が据えてありました。

(3) 主な出土遺物

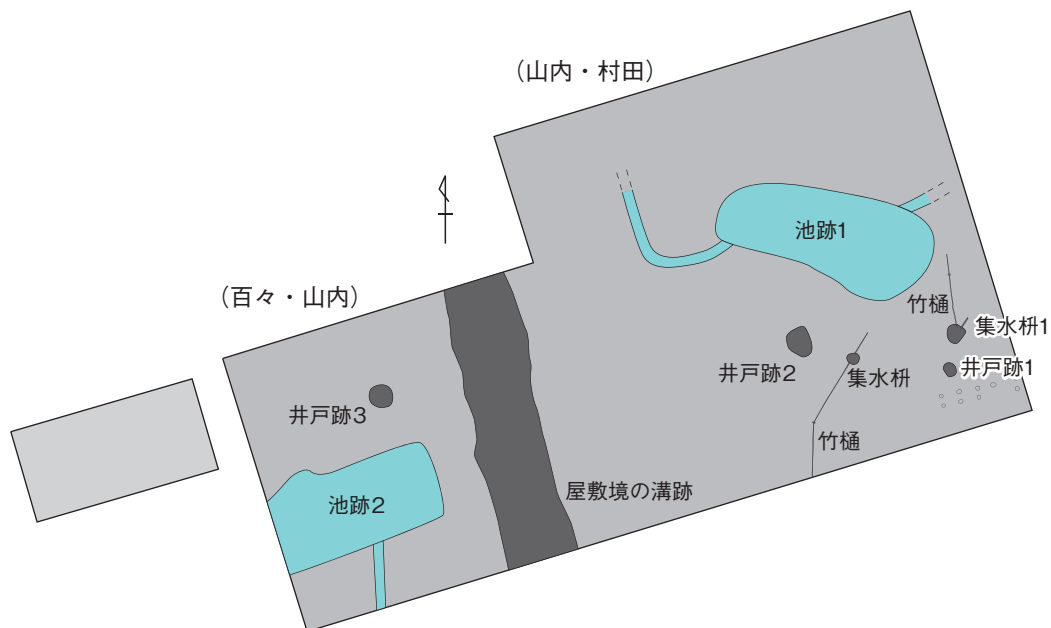
江戸時代初頭から幕末にかけての瓦や陶磁器、木製品などが多量に出土し、中には漆器椀などの高級食器や山内家の家紋である三葉柏紋の軒丸瓦、「山内蔵人」と書かれた木簡などもみられます。

陶磁器（肥前産陶磁器、尾戸焼、能茶山焼、唐津焼、伊万里焼、志野焼、織部焼）、貿易陶磁器（青花）、備前焼、瓦、木製品（漆器、曲物、下駄、木簡、将棋の駒）などコンテナケース約300箱・約12万点

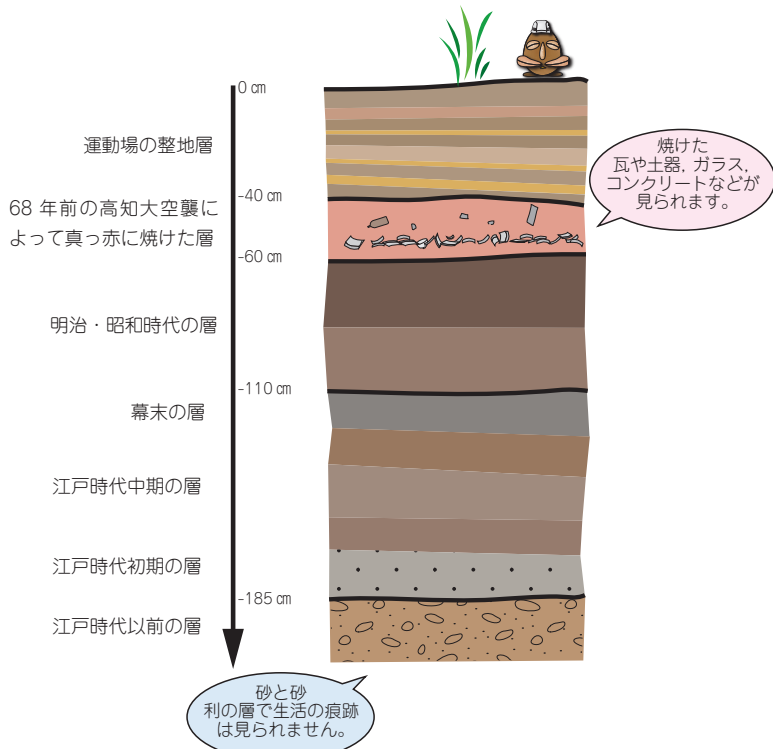
(4) 調査成果

今回の調査で全国的にも類例が少ない江戸時代の武家屋敷跡に伴う池跡が確認されたことは非常に貴重な成果と言えます。いずれの池跡も小さな石を積み重ねていることや石積みが勾配を持っていることから土佐独自の手法でつくられたと考えられます。同時代に造られたとみられる五台山竹林寺の池は京都風であり、寺院と武家屋敷で造営方法が異なるという興味深い事例でもあります。

絵図に描かれていた屋敷境が発掘調査により確認されたことも大きな成果です。調査区東部で確認された17世紀とみられる遺構からは山内家の家紋である三葉柏紋の軒丸瓦が出土しており、絵図に記載されている「山内」という内容とも合致します。さらに集水枡や竹樋が確認されたことで、高知の城下町でも17世紀代には上水が引かれていたことが判明し、発掘調査により絵図に描かれていた武家屋敷の具体像が見えてきたと言えます。



検出された主な遺構の位置図 (S = 1/800)



「山内蔵人」と書かれた木簡



屋敷境の溝跡



幕末の漆器碗



江戸時代前期の井戸跡



江戸時代初頭の絵唐津



集水枘から伸びる竹樋



池跡 2



集水枘跡